

Ⅱ. 事業の概要

法人本部

1. 理事会、評議員会の開催状況

- (1) 理事会開催回数 6回 令和3年(2021年)3月～令和4年(2022年)年5月
- (2) 評議員会開催回数 6回 令和3年(2021年)3月～令和4年(2022年)年5月

2. 監事による監査状況

- (1) 監事 矢野 範子 氏、 島岡 雅之 氏

- (2) 監査状況

理事会等に出席する他、関係書類閲覧等及び期中・期末監査を実施

[会計監査] 期中、期末

会計監査人(独立監査人)との連携協議含む

[業務監査] 期中、期末

理事長及び法人本部長等との面談による現況聴取及び法人が設置する学校現場での実地監査を実施(ユマニテク短期大学、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校の校長・事務長等からの面談による現況聴取、協議、校舎内視察等)

[監査報告書提出] 令和4年5月24日

3. 私立学校振興助成法に基づく会計監査人(独立監査人)による監査状況

- (1) 監査契約 受嘱者 公認会計士 佐久間紀事務所 公認会計士 佐久間 紀 氏
公認会計士 久留美輝晃事務所 公認会計士 久留美 輝晃 氏
- (2) 上記委託審査担当員 公認会計士 伊藤 堯夫 氏
- (3) 監査報告書提出時期 令和4年6月
- (4) 監事との連携 期中、期末

4. 重要事項等

- (1) ユマニテク短期大学

平成29年4月に開学したユマニテク短期大学は平成30年度に完成年度を迎えた後も、文部科学省による「設置計画履行状況等調査」及び「大学等設置に係る寄附行為(変更)認可後の財務状況及び施設等整備状況調査における意見に係る報告書」の提出を求められ、文書にて前述の調査を提出してきました。令和3年度は、改めてWEB面接調査が実施されることとなり、事前に面接調査用の報告書を提出した上で、令和4年1月14日に大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)による面接調査が実施されました。その結果は令和4年3月25日に本学へ通知(文部科学省のホームページにも掲載)され、初めて指摘事項が付されませんでした。今後も安定した学校運営を行うため、学内の整備を行い、引き続き定員充足に向けて取り組んでまいります。

(2) 県知事所轄の専修学校（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校）

平成31年4月に改編した専修学校においては、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校の歯科衛生学科で定員増の完成年度を迎えました。歯科衛生学科では、全学年が3クラス編成となり、在籍者数が増加し、施設の稼働方法を工夫しながら、新型コロナウイルスへの対応も踏まえ、なるべく密を避けるよう努力しています。引き続き、より多くの歯科衛生士を地域社会に送り出せるよう教育活動に専念して参ります。また、3年目を迎えた調理師専科では、初めて入学生が30名を超え、学校に活気が出てきました。令和4年度は更に入学者数が増加しますので、施設の稼働方法を工夫し、対応して参ります。製菓製パン本科と合わせて、入学者全員が資格を持って卒業できるように教育活動の充実を図ります。

高等課程の総合学科についても男女共学化して3年が経過し、初めて男子生徒の卒業生を輩出しました。苦戦していた生徒募集についても、2年続けて入学者の定員充足を達成し、総定員の充足も窺えるようになりましたので、もう1年継続し、総定員の充足を目指します。

また、専修学校改編後の順調な学生募集を背景に、名古屋地区に新規事業計画を立案中です。その実行に不可欠な新校舎建築用地として、令和3年6月に名古屋市西区牛島町の土地を取得しました。今後、現設置校の設置学科の拡充を中心に事業計画の協議を進めて参ります。

上記、名古屋2校の改編に伴う校舎や施設設備の整備に関しては、平成30年度に概ね改修工事が完了しておりますが、学年更新での学生数増員に対応するための備品の追加や、プロジェクターや音響設備の更新等を令和3年度に実施しました。また、製菓学科増設時のオペレーティングリース契約の整理を行い、継続使用するものを取得しました。

事業報告にあたって

コロナ感染防止の緊急対応を迫られ、様々な混乱が生じる中で、令和3年度も多くの高等教育機関が全面オンライン授業という中で、本学は対面授業とオンライン同時中継等の遠隔授業を組み合わせたいわゆるハイブリット型授業に取り組んだ。変則的な授業方法と時間割を策定せざるを得なかったが、教育の質を保障できたと考えている。その他の教学関係については専任教員を中心にコロナ禍においても対話的で協同的な学びを実現する授業実践が展開された。講義型授業においても短時間のグループワークを行い、また、リフレクションシートを活用し、学修定着を図った。次年度はさらに大学における協同学習に関する研修を行い、更に充実したものにしていきたい。

管理マネジメントについては事務局組織の体制整備と教員構成の再編を手掛けた。事務局員の削減、教員構成の見直しを実施し、経営安定の足掛かりとなるように計画した。仕事の一つの部門に偏らないように課を超えて全員が相互支援出来るような仕組み整え、個々の事務職員の姿勢を喚起した。教職協働の組織体制を編成することができたが、今後はこれをどう機能させるかが課題である。

学生募集については目標の80名に対して、最終的には72名であった。離職者訓練生の5名枠を令和4年度は10名枠に増員できたこと、内部進学者の増加等がおもな要因である。生徒数の減少傾向にある中で、SNS等の活用を通して、一般の高校生の募集強化はもちろんのこと、社会人対象の「学び直し」いわゆるリカレント教育をさらに積極的に進めていきたい。

I. 基本方針について

1. 教育方針

建学の精神「地域を支える次世代を社会に送り出す」

教育理念「豊かな人間性と確かな技術」

めざす人物像「豊かな人間性」「確かな技術」を身につけていること

2. 教育目標

- ・乳幼児期における専門的教育力・保育力を持った実践的指導力を有する専門職の養成
- ・コミュニケーション能力を有する専門職の養成
- ・地域のニーズを理解し、地域に根差す能力を有する専門職の養成

3. 主な教育・研究の概要

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

本学は、建学の精神に定める人材を育成するために、本学での学修に対する目的や意欲をもち、高等学校までの学習及び経験を通じて基礎的な知識を修得し、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身につけて入学してくるよう、下記のことを求める。

このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施する。

◎高等学校の教育課程を幅広く修得している。

◎自らの意思を明確に表現し、他者との円滑なコミュニケーションを図ることができる。

- ◎学びたい学科で学修した知識・技能や態度を、地域社会で活かそうと考え、将来、保育者として従事したいという強靱な目的意識をもっている。
- ◎自ら主体的に課題設定が可能で、その課題に前向きかつ持続的に取り組んでいこうという意欲を入学前からもっている。
- ◎高等学校までに、部活動、ボランティア活動、資格・検定の取得等に、積極的に取り組んだ経験がある。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

○教養科目

「地域を支える次世代を社会に送り出す」という建学の精神を深めるための科目や、自らの人間性を深めたり世界観を広げたりできるように科目を設置している。

①人間性や職業観に関する科目

「心理学」「キャリアデザイン」等

②言語や情報に関する科目

「外国語コミュニケーション」「情報処理」等

③健康と保健体育に関する科目

「人間と健康」「スポーツ・レクリエーション実技」

○専門教育科目

教育理念である「豊かな人間性と確かな技術」を体現する者として、自ら考え、主体的に行動できる保育者を育成するため、理論と実践をバランス良く学ぶことができるように以下の科目を設置している。

①保育や幼児教育の目的や子どもを取り巻く社会の現状について学ぶ科目

「保育内容総論」「子ども家庭福祉」等

②保育や幼児教育の対象となる子どもと家族について理解を深める科目

「子ども家庭支援論」「障がい児保育」等

③保育や幼児教育を実践するための方法や技術を修得する科目

「保育指導法」「教育相談」等

④保育や幼児教育をめぐる諸問題について倫理的に考え表現する方法を修得する科目

「保育・教職実践演習」「ゼミナール」等

⑤保育や幼児教育について現場で他者とコミュニケーションをとりながら実践的に学ぶ科目

「保育実習」「幼稚園教育実習」等

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

現場に即した保育者になるため、教育課程（教養科目および専門教育科目）の学修を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学修成果は次のとおりである。

①乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。

②子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。

- ③子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。

II. 令和3年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

令和4年3月31日現在

学 科 名	幼児保育学科		
	1 年	2 年	合計
定 員	100 名	100 名	200 名
「5/1」時点 学生数 (A)	62 名	57 名	119 名
(内) 内部進学者数	6 名	5 名	11 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	1 名	0 名	1 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名
「3/31」時点 学生数 (B)	51 名	57 名	108 名
(内) 内部進学者数	5 名	5 名	10 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	1 名	0 名	1 名
(内) 休学者数	1 名	0 名	1 名

(2) 令和3年度卒業生の状況

資格所得状況

令和4年3月31日現在

学 科 名	卒業生	保育士	幼稚園教諭	ダブルライセンス	備 考
幼児保育学科	57 名	54 名	54 名	53 名	
(内)内部進学者	5 名	5 名	5 名	5 名	
(内)留学生数	0 名	0 名	0 名	0 名	
合 計	57 名	54 名	54 名	53 名	

就業者状況

学 科 名	専門分野 就業者(予定)	専門分野外 就業者	内部 進学者数	他、 進学者数	その他 (未就職)	備 考
幼児保育学科	54 名 (94.7%)	2 名	0 名	0 名	1 名	
(内)内部進学者	4 名 —	1 名	0 名	0 名	0 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
合 計	54 名 (94.7%)	3 名	0 名	0 名	1 名	

(3) 学生募集活動・取組

①数値目標

幼児保育学科	2021 年度実績	2021 年度目標
オープンキャンパス動員数	125 名	160 名
(内) 内部進学者	36 名	40 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
受験者数	78 名	90 名
(内) 内部進学者	17 名	10 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
入学者数	72 名	80 名
(内) 内部進学者	16 名	10 名
(内) 留学生数	0 名	0 名

②募集の計画・取組報告

入試広報委員会の活動報告にて記載。

(4) 各種認定（指定）状況について

○高等教育の修学支援制度

《支援状況》			
【入学金】			
<u>幼児保育学科：Ⅰ区（満額）6名、Ⅱ区（2/3）1名、Ⅲ区（1/3）1名</u>			
合 計	6名	1名	1名
【前期学費】			
<u>幼児保育学科：Ⅰ区（満額）12名、Ⅱ区（2/3）4名、Ⅲ区（1/3）2名</u>			
合 計	12名	4名	2名
【後期学費】			
<u>幼児保育学科：Ⅰ区（満額）14名、Ⅱ区（2/3）2名、Ⅲ区（1/3）0名</u>			
合 計	14名	2名	0名

(5) 県委託事業採択、委託訓練生受入

①三重県委託事業採択（受託事業費 5,012,000 円）

・放課後児童支援員認定資格研修

四日市会場：10月16日～11月27日 計4回 78人受講

津会場：10月2日～12月11日 計4回 75人受講

松阪会場：10月9日～11月28日 計4回 70人受講

・放課後児童支援初任者研修

津会場：10月7日 50人受講

四日市会場：10月21日 37人受講

- ・放課後児童支援資質向上研修
津会場 : 10月14日 83人受講
四日市会場 : 11月28日 78人受講
 - ・子育て支援員研修
四日市会場 : 10月～R4/1月 47人受講
- ②三重県委託訓練生受入(受託事業費 11,880,000円)
- ・保育士養成科生徒として各学年5人の受入

2. 各委員会の活動報告

(1) 入試広報委員会(学生募集活動関連)

令和4年度生を迎えるための学生募集活動を、3月から入試広報課を中心に行った。入試広報委員会を12回(判定会議を含む)開催し、その決定に基づき高校訪問、校内・会場ガイダンス、オープンキャンパス、その他学生募集に尽力した。各活動詳細については以下の通り。

① 入試

- ・入試区分別では72名の入学者中、総合型選抜(旧AO入試)21名、学校推薦型選抜(指定校推薦入試25名、公募制推薦入試2名)内部推薦進学14名、社会人選抜1名、委託訓練生9名であった。
- ・地域別入学者数は下記表1の通りとなった。

【表1】

地域	市郡	入学者数
北勢	桑名、員弁、四日市、菰野	43
中勢	鈴鹿、亀山、津、松阪、多気	15
南勢	伊勢、志摩	6
伊賀	伊賀、名張	1
県外	愛知	7
合計		72

また、男女別では男子8名(11%)、女子64名(89%)であった。

なお、72名の入学者中、高校現役入学者は62名、既卒者は10名という結果であった。

- ② 上記72名中、奨学金・スポーツ奨励金該当者、本学独自の奨学金制度該当者は表2の通りである。

【表2】

奨学金種別 入試別	一般奨学金			学園内奨学金	特別奨学金	特待生奨学金	スポーツ奨励金	遠隔地制度
	130,000円	100,000円	50,000円	100,000円	150,000円	200,000円	200,000円	50,000円
総合型選抜		7	7				1	
指定校推薦	22					2	1	
内部推薦進学				14				
一般								
合計(人)	22	7	7	14	0	2	2	0

*内部推薦進学入試で受験した14名は、入学金280,000円と検定料30,000円の減免制度に該当
その他の内部進学生2名は入学金280,000円の減免制度に該当

③ オープンキャンパス

【表 3】

開催日	イベント名	申込数	出席数	実人数	高3	高2	高1	その他	出席同伴数	欠席数
3/20	AM オープンキャンパス	22	19	13	9	4	0	0	4	3
3/20	PM オープンキャンパス	31	28	11	7	4	0	0	3	3
4/24	PM 小論文対策講座	31	26	22	22	0	0	0	4	5
5/22	PM オープンキャンパス	58	44	30	28	2	0	0	5	14
6/12	AM 入試対策講座	37	32	11	10	0	0	1	3	5
6/12	PM オープンキャンパス	28	28	7	5	2	0	0	3	0
7/25	AM オープンキャンパス	44	37	18	11	6	0	1	6	7
7/25	PM オープンキャンパス	41	39	21	10	9	0	2	5	2
8/7	AM オープンキャンパス	47	40	21	9	10	0	2	13	7
8/7	PM オープンキャンパス	21	20	10	3	7	0	0	5	1
8/20	AM 入試対策講座	41	36	7	4	3	0	0	7	5
8/20	PM 個別相談会	37	4	4	0	4	0	0	0	33
9/12	PM 個別相談会	2	2	1	0	0	0	1	1	0
12/19	AM オープンキャンパス クリスマス	14	9	3	0	1	2	0	0	5
合 計		454	364	179	118	52	2	7	59	90

オープンキャンパスの実施回数は上記表 3 の通り全 9 回であった。コロナ禍のために夏休み後半から 9 月にかけては対面でのオープンキャンパスに代えて個別相談会を行うなど工夫をすることができる限り高校生の要望に沿うようにしたが、直接本学の良さをアピールする機会が減ってしまったのは大変残念であった。また、今年度はこれ以外にも「個別相談会」を 8 月後半の 1 週間をかけて、また 10 月、11 月にも複数回実施、2 月には社会人入試の説明会も行うなどできる限り個人対応を増やし、10 名以上の出席者を得た。小論文講座、入試対策講座を合計 3 回実施して受験生のニーズに対応した。どの講座も人数も多く集まり、出願にもつながったと思われる。

次年度は時期や WEB による実施も含めて出願者の増加につながるよう検討を加えて実施する予定である。

1 月末日までの総動員人数は 364 名で昨年 の 208 人に比べて大幅に増えてはいる。しかし、高校生や高校側もコロナ禍の感染を恐れて参加を控えたのが影響しているとも思われ、もう少し出席者を増やしたいところではあった。

オープンキャンパスも個別相談会も、他大学・短大より比較的多く実施し、内容も充実したものになるように心掛けた。入学後の教育だけでなく、オープンキャンパスや相談会においても一人ひとりに手厚いものになるよう、入試広報担当のみならず全学をあげてのイベントとなったと感じている。本学にとってオープンキャンパスの参加は生命線である。高校 3 年生と既卒者の人数は実人数で 125 名であった。委託訓練生を除く入学予定者は 63 名であり、オープンキャンパス参加者の 50.4% が入学に結び付いたことになる。また、3 年前から始まった委託訓練生の入学者がこれまでの 5 名から 9 名に増えたこと、内部進学 of 生徒が増加したことが入学者増加につながったといえる。来年度は、SNS を通じての参加者募集、WEB によるオープンキャンパス、入試方法の改善、奨学金制度

の改革など、Z世代と言われる高校生たちの感性にフィットするような募集の仕方に改善したい。今年度も、毎回、実施後に反省会を開いて改善事項を出し合ったが、オープンキャンパスの内容そのものの満足感を高められるような工夫をしていきたい。

④ 会場・校内ガイダンス

2022年1月末現在で、会場ガイダンスは9回（昨年18回）、校内ガイダンスは56回（同69回）に参加した。延べ着席・参加人数は535名（昨年674名）を数えた。コロナ感染の影響で前年よりさらに回数が減っており（特に会場ガイダンスは開催回数が半減している）、参加人数は大幅に減っているが、会場ガイダンスの着席者の人数も校内ガイダンスの参加人数も平均値では大きく増加しており、ユマニテク短期大学の認知度が進んできているのが見て取れる。

(2) 教務委員会

① FD・SD研修会等の実施

令和3年8月24日、令和3年度前期FD・SD研修会（Zoomによる同時配信）を実施した。名古屋経済大学名誉教授・伊藤健次氏を講師とし、「当世学生事情とメンタルヘルス」をテーマに行った。本学の教職員・学園関係者51名が参加した。

令和3年12月23日、ユマニテク短期大学501講義室において、令和3年度私学連携協議会みえFD・SD研修会（Zoomによる同時配信）を実施した（本学幹事校）。本学非常勤講師で弁護士の中村紘也氏を講師とし、「著作権について」をテーマに行った。本学の教職員含め全体で275名が参加した。

令和4年2月17日、高等教育コンソーシアムみえFD/SD合同研修会との共催で、令和3年度後期FD・SD研修会（Zoomによる同時配信）を実施した。株式会社学び・寺裏誠司氏を講師とし、「退学予防から見える教育改革の方向性～退学率を左右する教育力と学生パーソナリティ別の支援策について～」をテーマに行った。本学教職員は24名が参加した。

② 教員免許状更新講習

第Ⅰ期令和3年7月3日(土)、7月10日(土)、7月17日(土)、7月24日(土)、7月31日(土) 各日6時間計30時間、第Ⅱ期令和3年12月4日(土)、12月5日(日)、12月11日(土)、12月18日(土)、12月19日(日)各日6時間計30時間、ユマニテク短期大学内講義室にて本学の教員11名により教員免許状更新講習が行われた。コロナ感染症対策として各日80名の定員を40名に変更の上、募集を行った。受講料1講座6,000円。受講者は第Ⅰ期延べ198名、第Ⅱ期延べ37名計235名であった。事後評価結果では、「よい」「だいたいよい」の数値でほぼ100%の評価であった。

③ 学生による授業評価アンケートの実施

全講座・全学生を対象に前期・後期・集中授業終了時にGlexa内回答による授業評価アンケートを実施した。各教員に集計結果を配布、結果に対する回答を得た。学生に対しても集計結果を公表した。

④ 学外実習の実施

コロナウイルスの感染症対策により、各学外実習は日程変更や日数短縮をして実施した。

実習名	変更前	変更後
保育実習Ⅰ(保育所)(概ね10日間) 1年60名	1年次後期2月	変更なし
保育実習Ⅰ(施設)(概ね10日間) 2年56名	2年次前期8月末～9月	変更なし
保育実習Ⅱ(保育所)(概ね10日間) 2年54名	2年次後期10月	変更なし
保育実習Ⅲ(児童館等)(概ね10日間) 2年9名	2年次前期8月 後期12月	変更なし
幼稚園教育実習Ⅰ(5日間)1年46名	1年次後期10月	令和4年度の2年次へ変更
幼稚園教育実習Ⅱ(15日間)2年55名	2年次前期6月	変更なし

(3) 学生支援委員会

月1回の学生支援委員会を開催して情報の共有につとめた。今年度はコロナウイルス感染の関係で予定していた行事が中止となった。

① 学生ハンドブック

学生ハンドブックは「学生便覧」「実習の手引き」の2部構成で作成した。学生ハンドブックは学生生活に必要なあらゆる情報を網羅した学生必携の冊子とし、オリエンテーションで学生、教職員(非常勤)へ配布した。シラバスはWebで公開していることを学生にも周知している。

② 同窓会

令和3年5月22日(日) 中止

③ 保護者会

実施予定日：令和3年6月12日(日) 保護者会中止の文書を送付

④ 学外研修

実施予定日：令和3年9月22日(水)テーブルマナー研修 中止

⑤ 避難訓練

実施日：2年生 令和3年11月1日(月) 専門ゼミナールの時間内

1年生 令和3年11月3日(水) 基礎ゼミナールの時間内

保育者を目指す者として、あらゆる状況でも臨機応変に対応し、安全な避難行動をとれることを目的とした。コロナウイルス感染対策の為、四日市中消防署よりDVDを借りて視聴による避難訓練とした。授業時間内に大きな地震が発生し津波の到達が予測されるとの想定で避難経路の確認を行った。

⑥ 学生会主催行事大学祭

実施予定日：令和3年11月20日(土) 中止

⑦ SNSの指導

学生が不適切な投稿をしていることについて注意喚起を行った。

⑧ その他

1) サークル活動について

学生が行うサークル2団体(バスケットボール、バドミントン)は、感染対策を徹底し体育館で活動を行った。

2) 意見箱の設置について

学生生活の満足度向上を目的として、2階学生ホールに設置した意見箱に意見の投函はなかった。

3) ウェルネスチェックについて

学生の健康状態等の把握を目的として、ウェルネスチェックを実施した。ゼミナール担当教員とも情報共有をして学生対応を行った。

4) ケガをした時の対応について

フローチャートを作成して学生には登下校中の交通事故も含めて、学校への報告体制を指導した。

5) コロナウイルス感染対策について

三重県からの行動指針が発表される度に、教職員を含む学生全員に感染対策防止徹底について指導した。それに伴い、学生ホール等の机や椅子の配置変更を行い密にならないように対策を講じた。昼食は対面とならない様な座席指定、更にアクリル板の設置を行い、学生支援委員は昼休みに昼食会場の巡回指導を行った。

また、三重県の無料PCR検査を成人式後に実施し、希望する2年生27名が検査を行った。無症状者1名の陽性者を確認し早期に対応することができた。

6) 卒業生寄贈品について

4期卒業生寄贈品について、学園歌がペイントされたベンチと時計が寄贈された。

7) 卒業アルバム作成について

学生アルバム委員とともに卒業アルバムの作成を行った。

8) 学生相談（休学者と保護者との面談を含む）

9) 卒業時のアンケートの実施

10) キッチンカー（ラーメンとおにぎり販売）の運用はコロナ感染が収束してから再度検討

(4) キャリア支援委員会

きめ細やかな進路支援に取り組むことを目的として、随時個人面談を実施し、進路活動の把握とゼミナール担当教員との情報交換をした。

また、進路支援の一環として、公務員希望の学生を対象とした採用試験対策講座を実施した。1次試験対策としては受験指導の実績のある外部講師に教養講座を依頼し、独学では難しい「問題の解き方」の講座を開催した。2次試験対策（面接、実技）として、受験自治体に特化した個別支援を実施、令和3年度は四日市市に1名採用された。

① キャリアデザインⅠ（1年生後期）、キャリアデザインⅡ（2年生前期）

② 個人面談

③ 履歴書の添削指導

④ 個人面接、集団討論等の指導

⑤ 求人票の送付 三重県内278事業所

⑥ 求人情報の整理

⑦ 就職先への訪問に代わり電話での情報収集

⑧ 三重労働局、四日市職業安定所への進路状況の報告

⑨ 卒業生の就労相談

⑩ 三重学生就職連絡協議会の会議出席

⑪ 三重県社会福祉協議会主催の「保育士確保・保育所支援関係機関連携会」会議出席

⑫ 三重県少子化対策課主催の「保育士確保にかかる指定保育士養成施設」会議出席

<令和3年度 卒業生進路状況>

令和4年3月31日現在

区分	男子	女子	計
幼稚園	1	7	8
保育所及び幼保連携型認定こども園 (内公立保育所正規採用者)	2	38 (1)	40 (1)
児童福祉施設(児童養護施設等)	0	2	2
知的・身体障害者施設	1	0	1
児童福祉事業等(放課後デイ・学童保育所)	2	1	3
その他(一般企業等)	0	2	2
進学	0	0	0
一時的な仕事(アルバイト、未定者を含む)	0	1	1
計	6	51	57

就職希望者 56 名（就職率 100%）のうち、54 名が資格を活かし保育職（96%）に就職した。

(5) 図書学術委員会

① 学生の図書館利用促進

- ・ 新入生に対し、入学前教育の時間を利用し図書館利用オリエンテーションを行った。
- ・ 9 件の授業での利用があった。
- ・ 季節等に合わせた特集や三重県立図書館等との連携企画展示を行った。
- ・ 購入図書選定の際、利用者からのリクエストに応えた。
- ・ 図書館だより第 4 号～6 号を発行した。

※利用状況等

令和3年4月1日～令和4年3月31日

項目	令和3年度	備考
1 サービス対象者（学内）	161 人	教職員：42 名 学生：119 名
2 開館日数	223 日	土日祝、夏季・冬季学校休校日、蔵書点検等 休館
3 入館者数	1,144 人	
4 貸出冊数	772 冊	
5 レファレンスサービス	12 件	所蔵調査 12、書誌調査 0
6 文献複写依頼サービス	10 件	NACSIS-ILL 等利用
7 蔵書数	11,027 冊	図書 7,862、視聴覚資料 232、電子書籍 565 寄贈図書 1,617、研究費図書 751 含む
8 受入れ冊数	413 冊	図書 283、視聴覚資料 2、寄贈図書 8、研究費図書 120
9 除籍数	0 冊	
10 雑誌、新聞数	36 種	新聞 2 紙（研究費購入 2 種含む）

②ミニ企画展の開催

期間	テーマ	主催
7/10～12/25	いろいろな「赤ずきん」絵本	図書学術委員会（資料提供：川勝泰介図書館長）

③紀要の発行

- ・ユマニテク短期大学紀要第5号を発行した（2022.3）。
- ・機関リポジトリへのアップも行う予定である。

④蔵書点検

9月と3月に実施し、不明本は1冊であった。

⑤公開セミナー（みえアカデミックセミナー）

生涯教育活動の一環として、高等教育機関として三重県との連携事業でみえアカデミックセミナーを実施した。令和3年度は、鈴木建生学長が講師を務めた。

会場には、大学パンフレットも設置し、社会人の学びの機会として本学を紹介した。

日 時：令和3年7月16日（金）

場 所：三重県文化会館レセプションルーム

参加者：35人

講演内容：明治維新以来の教育改革と言われる『新学習指導要領』が2020年から小学校、中学校、高校と年次進行で実施されています。ポイントは「主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の実現される教育です。これまでの教育のあり方と何がどう変わるのか。国家のための教育から人格の陶冶を目指す人間教育への転換を分かりやすく解説します。

⑥研究費に関わる研修会の実施

『研究倫理教育及びコンプライアンス教育の実施要項』に基づき、コンプライアンス研修会（9月）と研究倫理研修会（3月）を実施した。

3. その他の報告事項

(1) 奨学金支給について

今年度の奨学金支出については、令和2年度に規程改定した奨学金規程に則り、下記の通り支出した。

奨学金種類	人数	金額	合計(円)
総合型選抜 A（旧 AO）入試	4	100,000	400,000
総合型選抜 B（旧 AO）入試	4	50,000	200,000
学校推薦型選抜（旧指定校）入試	22	130,000	2,860,000
内部推薦進学入学金減免	6	280,000	1,680,000
内部推薦進学奨学金	6	100,000	600,000
特別奨学金 授業料減免（1年5名、2年1名）	6	150,000	900,000

特待生奨学金	2	200,000	400,000
特待生奨学金 2年	2	200,000	400,000
内部推薦進学 検定料減免 (R3年度生)	6	30,000	180,000
スポーツ奨励金 (1年3名、2年5名)	8	100,000	800,000
スポーツ奨励金 入学金減免	3	100,000	300,000
遠隔地サポート制度 (1年2名)	2	50,000	100,000
合 計			8,820,000

(2) 各種団体へ加盟

①各種団体に加盟し、それぞれが主催する総会、研修会、会議等に参加した。令和3年度はオンライン研修等が多かった。次年度も継続して加盟予定である。

なお、令和3年度は団体加盟費の一部を履修者から履修費として徴収した。

団体名	金額(円)
日本私立短期大学協会	185,200
中部地区私立短期大学協会	3,000
一般社団法人短期大学基準協会	134,400
一般社団法人全国保育士養成協議会	140,000
私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会	15,000
三重県図書館協会	11,500
三重県学生就職連絡協議会	40,000
三重県私立大学高専協会	70,000
高等教育コンソーシアムみえ	55,000
三重県レクレーション協会	10,000
三重県私立大学入試・広報連絡協議会	20,000
日本レクリエーション協会 課程認定料	100,000
一般社団法人児童健全育成推進財団	20,000
児童厚生員養成課程連絡協議会	30,000
全国保育士養成協議会中部ブロック協議会	10,000
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 (認定料)	60,000
合 計	904,100

②三重県私立大学高専協会の役員校としての活動について

令和3年度私学連携協議会みえ主催の三重県内高等教育機関合同FD・SD研修の企画を幹事校として、担当した。

研修方式：オンライン研修 (ZOOM)

日 程：令和3年12月23日 (木) 15:00~16:00

研修内容：「著作権について」

講 師：弁護士 中村紘也先生 (ユマニテク短期大学非常勤講師)

対 象：三重県内高等教育機関の教職員

参 加 者：275名

(3) 面接調査・指導検査について

①令和3年度設置計画履行状況等面接調査について

日 時：令和4年1月14日〈金〉10:30～11:30

実施方法：WEB形式

実 施 者：文部科学省 大学設置・学校法人審議会

担当部署：文部科学省高等教育局高等教育企画課

内 容：大学の設置認可後における教育課程、教員組織、施設、設備等の当初計画の履行状況の把握のための面接調査が行われた。

結 果：令和4年3月25日付けで文部科学省のホームページで結果公表。「指摘事項」は付されなかった。

②指定保育士養成施設指導検査

日 時：令和4年3月15日〈火〉13:00～16:00

実施方法：対面検査

実 施 者：三重県子ども・福祉部少子化対策課

担当部署：幼保サービス支援班

内 容：定期報告等に基づく指導（書面調査）に加え、現地において指定基準に係る関係法令等の遵守状況を確認

結 果：実地調査の結果、指摘事項なしと通知

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

校長 服部 正巳

事業報告にあたって

令和3年度は入学定員を80名から120名に変更し、3学年とも3クラスになり完成年度を迎えた年度である。総定員が240名から360名に学生数が1.5倍になり、計画段階では想定していなかった施設面や学生指導面での課題もあったが、教育効果が下がらないように試行錯誤、工夫をしながら終えた年度であった。

変化があった事で気づかされる部分もあり、今後の組織の安定や教育の質を担保するために人材育成の重要性を改めて認識させられた年度でもあった。教育の要である教員育成に今後も注力をしていきたいと考える。

また、令和3年度は寄付金のご案内を通して、外部の歯科医療業界の方と繋がりを多く持つことが出来、現状の歯科業界をより理解出来たとともに、寄付金として多くのご支援をいただく事で、令和4年度より歯科衛生士不足の解消に少しでも寄与できるように給付型奨学金を設立する予定である。

今後も、時代の変化に対応し常に進化し続け、入口では入学したい学校、出口では業界から求められる人材を輩出し、良い循環を作れるように学校運営をしていく。

I. 基本方針について

1. 教育方針

- ① 歯科衛生をめぐる多様なニーズが期待されているなか、基礎科目を基盤として歯科口腔衛生に関する高度な専門知識と技術を習得させる教育を目指す。
- ② 社会の動向と時代の要請に対応出来る実践力と、人の心の痛みがわかる豊かな人間性と社会性を備えもつ医療人の育成を目指す。
- ③ 他の医療職種と連携して、地域における歯科保健医療の向上に貢献できる歯科衛生士の育成を目指す。

2. 教育目標

- ① 専門的知識と技術及び科学的な思考力を統合した実践力の育成
- ② 高い使命感と倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成
- ③ 医療人としてのコミュニケーション能力の育成

3. 主な教育・研究の概要

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

- ① 人や社会、医療に関心を持っている人
- ② 歯科衛生士を目指す上で入学前から高いモチベーションを備え、入学後にも探究心を持ち、主体的かつ柔軟な思考で取り組むことができる人

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

歯科衛生士学校養成所指定規則に基づき、体系的に学修できるよう基礎分野・専門基礎分野・専門分野・選択必須分野を中心として、講義・実習(学内・学外)科目の配置を行っている。

本校は「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携して、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。主体的な問題解決能力、人間・社会に対する理解やコミュニケーション能力を養えるように科目を配置している。

授業計画（シラバス）については、授業概要、授業修了時の到達目標、授業計画（毎回のテーマ及び内容）、評価方法、使用教科書・教材を記載しており、入学年度及び各進級年度に学生に配付し、積極的に活用するように指示している

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士(医療専門士)を授与する。

- ・ 歯科衛生士業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・ 本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・ 授業料等学納金が完納されていること。
- ・ 卒業試験に合格していること。

II. 令和3年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

令和4年3月31日現在

学 科 名	歯科衛生学科			
	1年	2年	3年	合計
学 年	1年	2年	3年	合計
学 級 数	3	3	3	9
定 員	120名	120名	120名	360名
「5/1」時点 学生数 (A)	125名	122名	97名	344名
(内) 内部進学者数	4名	3名	2名	9名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	5名	0名	5名
(内) 休学者数	0名	3名	0名	3名
「3/31」時点 学生数 (B)	114名	117名	95名	326名
(内) 内部進学者数	1名	3名	2名	6名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	3名	0名	3名
(内) 休学者数	0名	2名	0名	2名

(2) 令和3年度卒業生の状況

国家試験状況

令和4年3月31日現在

学 科 名	卒業生	受験者数	国家試験合格者(見込)【全国平均合格率】	備 考
歯科衛生学科	95名	95名	95名 (100%)【95.6%】	
(内)内部進学者	2名	2名	2名 —	
(内)留学生数	0名	0名	0名 —	
合 計	95名	95名	95名 (100%)	

就業者状況

学 科 名	専門分野 就業者(予定)	専門分野外 就業者	内部 進学者数	他、 進学者数	その他 (未就職)	備 考
歯科衛生学科	95名 (100.0%)	0名	0名	0名	0名	
(内)内部進学者	2名 —	0名	0名	0名	0名	
(内)留学生数	0名 —	0名	0名	0名	0名	
合 計	95名 (100.0%)	0名	0名	0名	0名	

(3) 学生募集活動・取り組み

①数値目標

歯科衛生学科	2021年度実績	2021年度目標
オープンキャンパス動員数	355名	400名
(内)内部進学者	4名	4名
(内)留学生数	0名	0名
受験者数	132名	140名
(内)内部進学者	1名	4名
(内)留学生数	0名	0名
入学者数	121名	120名
(内)内部進学者	1名	4名
(内)留学生数	0名	0名

②募集の計画・取組報告

令和3年度募集は2回の入試(10月、11月)で定員を満たすことが出来たが、令和4年度募集は、予定通り6回の入試(10月～3月)で定員充足となった。令和3年度募集より、対面(ガイダンス等)からインターネット中心の広報募集を行い、令和4年度はさらに対面を減らしネットを中心に募集をしたことが影響したと考えられる。また、定員充足はもとより、入学生の質の向上を図るために指定校推薦の成績基準を評定平均3.0から3.2へ変更したこともその要因であったと考えられる。

令和5年度募集は対面とインターネット広報のバランスを整理し、定員充足だけではなく質の向上を図っていききたい。

③入学前教育の計画および取組報告

令和4年度生の入学前教育については、歯科医院からの寄付金を原資に、株式会社進研アド実施の入学前プログラムを全員に受講いただいた。令和3年度までは希望者のみとなっており、教員の指導がしづらい部分もあったが、全員受講ということで足並みをそろえて指導が出来る点は良かったと思う。入学後、スムーズに学習に入っていくための入学前プログラムを全員に受講させることで、学生の質向上や学生の課題点を早く見つけられ、早期の指導ができるため、退学率低減に繋げていきたい。

(4) 各種認定（指定）状況について

○高等教育の修学支援制度

《支援状況》			
【入学金】			
<u>歯科衛生学科：I区（満額）5名、II区（2/3）3名、III区（1/3）0名</u>			
合 計	5名	3名	0名
【前期学費】			
<u>歯科衛生学科：I区（満額）13名、II区（2/3）11名、III区（1/3）6名</u>			
合 計	13名	11名	6名
【後期学費】			
<u>歯科衛生学科：I区（満額）15名、II区（2/3）12名、III区（1/3）2名</u>			
合 計	15名	12名	2名

○職業実践専門課程

関係者評価委員会（1回）、教育課程編成委員会（2回）を実施

○専門実践教育訓練給付金制度

《指定年度・利用状況》
歯科衛生学科【指定年度：令和2年10月より】
【利用状況(今年度):51名(3年次15名・2年次18名・1年次18名)】

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

(1) 数値目標結果

①国家試験 合格率 100%

近年、国家試験の全員合格が達成出来なかったが、1・2年生から基礎知識と国家試験相当問題を取り組み、解き方の方法を定着させた。3年生春からは国家試験対策として、模擬試験を計8回、学内確認試験を1月からは1週間に2回を繰り返し行った。学習低迷者は個々の学生の短期目標を設け、担任による面談を繰り返し行った。個別指導、学生間のグループワーク等を繰り返し、学生意識の強化と成績アップを図るなど、徹底した指導を行った結果、全員合格を達成する事が出来た。

②退学率 5%以下

令和3年度の退学率は1年生8.8%、2年生4.1%、3年生2.1%で、全体では5.2%という結果であった。主な理由として、社会人は入学前の生活イメージと入後の生活イメージにズレがあり、続けたい気持ちはあるが、生活面でどうしようもなかったという理由や、現役生では、進路変更という理由であった。5%以下にするために社会人にはオープンキャンパスや学校説明会でしっかり入学後のイメージにズレが生じないように理解していただいてから受験を勧めるように努め、現役生には職業理解、なりたい気持ちの確認をしっかりと入学いただくように努めていきたい。

③入学定員充足 100%

令和4年度生も令和3年度に引き続き、入学定員充足100%を達成する事が出来た。ただ、令和3年度に比べ充足時期が遅くなってしまったため、令和5年度生募集に関しては広報募集手段を見直し、充足する事は当然のことながら、入学生の質にもこだわっていきたい。

3. 教育活動の主たる取り組み

(1) 教育課程

・カリキュラムの編成状況

歯科衛生士学校養成所指定規則に基づき、体系的に学修できるよう講義・実習(学内・学外)科目の配置を行ってきた。令和元年度にカリキュラム改訂を行ったが、3年目となる本年度が新カリキュラムの完成年度となり、体系的な学習の検証と構築に努めた。

本校は「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携して、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育へと努めた。

・教育方法の工夫・開発・改善の取組状況

授業計画となる「SYLLABUS」の学生への提示は、授業概要、授業修了時の到達目標、授業計画(毎回のテーマ及び内容)、評価方法、使用教科書・教材を記載して例年同様配布したが、学生アプリへも情報を発信した。そのことにより学生は、積極的に活用することが出来たと考えられる。

今年度も対面授業と遠隔授業も含めたハイブリット授業を行ったが、より学習効果が高められるよう検討し、実施した。実習科目については、技能動画を作成し学生配信を行ったりシミュレーターを活用した実習を幅広く実施するなど、対面授業と同等の効果を上げられるよう努めた。

- ・実習・実技等の取組状況

学内実習・実技については、各単元の到達目標・行動目標を学生に明示し、事前学習・授業・振り返りを学生が能動的に思考し、技術習得の向上を目指した。項目ごとのチェック習得表を活用し、教員や他の学生からの他者評価と自己評価を照らし合わせ、技能の向上を支援した。

学外実習については、2年次秋期～冬期、3年次春期～秋期と実施している。実習指導者による評価を実施し、評価、コメントを個々の学生にフィードバック面談を行い、次回の実習課題として指導した。

- ・企業連携教育の取組状況（連携企業数、連携教育内容）

本年度も、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で地域歯科医療関係施設や小学校また高齢者施設での現地に出向いての実習は見送りとなった。保育園での保健指導については、ZOOMを使いリアルタイムで園児に保健指導を行い、一定の効果を上げられたと感じている。

- ・キャリア教育への取組状況

入学前の取り組みは、令和2年度より行っている「入学前プログラム」を受講させている。多くの入学者が受講し、入学前に学習習慣を身につけること、歯科衛生士についての理解を深めることが出来たのではないかと感じている。このプログラムの実施効果として、入学後の学修に取り組む姿勢が向上したと感じるため、引き続き今年度も入学前プログラムを実施した。

今年度の3年生のライフデザインでは、初めて各分野の歯科医療現場から歯科医師、歯科衛生士などをお招きし、職能の特性、やりがい、診療業務の現状について教示いただき、卒業後のキャリアデザインを描き、就職活動に繋げる事が出来た。

- ・資格取得、検定試験合格等に関する指導体制の実績状況

初年度教育から基礎学習と並行して、国家試験に準じた問題も各科目取り入れて授業行った。3年生へは春からは国家試験対策として、模擬試験を計8回実施、11月からは総合基礎講座を行ったが、学生全体の底上げとはいかず、成績の低迷者の洗い出し、個別面談、学習指導や学生間のグループワークを時期に合わせた指導法で強化したことで、成績向上を図ることが最終的に出来たと感じている。

- ・授業評価の実施・評価体制状況

「学生授業評価アンケート」として、学年終了時に実施したが、本年度も、集計等分析をより早く実施出来るようにアプリ(MyId)を活用して実施することで、結果の振り返りを学生へも公表し、次年度へ向けての意欲、目標が高まるように指導を続けていきたい。

- ・職業教育に対する外部関係者からの評価状況

教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会にて、各委員より評価、意見を頂戴し、改善に取り組んだ。

- ・課外活動への取組状況

ボランティア活動として、地域保健センター、市町村主催の地域イベント、企業主催の講話、職能団体主催のイベント等今年度は可能な限り、参加を目指していく予定ではあったが、コロナ禍の影響はまだ続き、思うようには取り組むことが出来なかった。

・主な教育行事※

< 歯科衛生学科 >

1年	ガイダンス	4月5日(月)・4月6日(火)・4月7日(水)
	健康診断	4月5日(月)・4月7日(水)・4月9日(金)
	基礎力リサーチテスト	4月7日(水)
	学外研修 (レクリエーション)	10月20日(水)
2年	ガイダンス	4月5日(月)・4月6日(火)
	健康診断①	4月5日(月)・4月6日(火)
	健康診断②	4月7日(水)・4月8日(木)
	臨床式	10月14日(木)
	学外研修 (レクリエーション)	10月20日(水)
	臨床・臨地実習 (第1期)	11月5日(金)～12月24日(金)
	臨床・臨地実習 (第2期)	1月12日(水)～2月25日(金)
3年	ガイダンス	4月5日(月)
	健康診断	4月12日(月)・4月13日(火)・4月14日(水)
	臨床・臨地実習 (第3期)	4月19日(月)～6月11日(金)
	臨床・臨地実習 (第4期)	6月14日(月)～7月30日(金)
	臨床・臨地実習 (第5期)	9月17日(金)～10月27日(水)
	学外研修 (国家試験祈願)	11月9日(火)
	ハワイ研修旅行(希望者のみ)	※今年度は中止
	国試対策	11月～2月
	卒業式	3月8日(火)

(2) 学生支援

・学習サポート・相談体制状況

入学後すぐに基礎学力リサーチテストを実施し、結果を数値化し早期に指導すべき学生の洗い出しを行い、学習面での支援を行った。定期的な個別面談も早期に行い、学生からも気兼ね無く相談を申し出できる環境を整え、担任及び学年主任と連携し、学生の小さな変化へ早期に対応出来た。

・退学者、休学者への対応状況

退学意向となるまでは、本人含めご家族との状況の共有を図ることに努め、問題点の解決へ向けて面談を繰り返した。保護者への連絡で共有を図り、協力を得られるよう努め、休学者に関しては、復学への相談に関わり、意向のある学生へは具体的な支援を行った。

・就職支援状況 (就職内定率)

就職ガイダンス(学内・学外者)を、4月・7月・9月に実施した。県外及び遠方を希望する学生には、職業紹介業者への案内を行うなど、円滑に活動を行えるよう対応した。令和2年度に続き、令和3年度も、卒業生による臨床現場からのオンライン配信のガイダンスを行った。より卒業後のイメージを想起する機会となったと感じている。令和3年度も、就職希望者の内定率は100%を達成できた。

(3) 学修成果と評価

- 国家試験合格者数、就職率向上のための取組状況

1・2年生から基礎知識と国家試験相当問題を取り組ませ、解き方の方法を定着させ、3年生春からは国家試験対策として、模擬試験を計8回、学内確認試験を1月からは1週間に2回を繰り返し行った。学習低迷者は個々の学生の短期目標を設け、担任による面談を繰り返し行い、個別指導、学生間のグループワーク等を繰り返し、学生意識の強化と成績アップを図り、令和3年度は目標値である100%合格を達成出来た。

就職率は、希望者については全員就職へ繋がり、目標値の100%を達成出来た。卒業後に就職希望へと移行する者もいるので卒業後も対応を続けていく。

- 退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組状況

令和3年度の退学率は、全学年平均 5.2% (1年次 8.8% 2年次 4.1% 3年次 2.1%) となった。1年次についてはこれまで以上に注力する必要性がある結果となった。卒業率は、79%となった。今後も、

- 個々の学生について、入学前・入学後・卒業後へと変化の過程を見逃さず継続的にあたっていく
 - 担任教員のみならず、他の教員へも相談しやすい環境づくり
 - 教員間の情報の共有・連携の徹底を図る(朝のミーティング時)
- を引き続き、継続していく。

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

校長 星野 正純

事業報告にあたって

3年前、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校として再スタートを切った本校は、専門課程（調理師専科、製菓製パン本科）と高等課程（総合学科）の2課程を設置し、新しい組織の中で3年が過ぎようとしている。専門課程においては、強豪校の多いこの地区において東校舎・西校舎の2校舎に分かれての募集にもかかわらず、令和3年4月には製菓製パン本科が83名、調理師専科は31名の入学生が確保できた。高等課程においても、愛知県下15歳人口減少の中に高等専修学校が26校とひしめく中、男女共学、校名が調理製菓でありながら、総合学科での募集とやや難易度の高い環境ではあったが、総合学科の利点を中学生や保護者に強くアピールすることにより、定員を大きく上回り90名の入学生を確保することができた。全学科の入学定員200名のところ204名と入学定員を超える入学生を迎えスタートを切った。在籍数も、再編成以前の平成30年度の304名から414名と110名の増加となった。再編成をし、校名を名古屋ユマニテク調理製菓専門学校としたことにより、専門課程の入学者がより明確になり、高等課程は高等課程＋専門課程の5か年教育に拍車をかけることとなり在籍数増加につながったものとする。これも年度はじめに両課程の教職員を一同に集め、学校方針の周知、各自の自己目標を掲げることにより、各自の意識向上を図ることができたのではないかと思う。何とか基礎固めはこの3年間である程度は形となってきたと思われる。

次年度に向けての募集活動も各科が協力しあい年度初めに掲げた入学定員の確保について、高等課程は87名、専門課程は114名と達成することができた。在籍数においても令和4年度は450名以上を確保。しかし、この少子化の中いつまでも学生生徒数の増加は望めない。その場合は、今まで以上に内部進学数を増加させ、またドロップアウト数を減少させることにより在籍数を確保しなければならない。

私学人である我々は、教育はもちろんのこと、収支をも常に考慮したバランスのいい学校運営をしていくべきである。そのためには、今まで以上に全教職員が一丸となってことにあたり、より強靱な組織を作っていきたい。それには、大橋理事長が言われるとおり、「チームコミュニケーションの強化」こそが重要となる。

I. 基本方針について

1. 教育方針

<高等課程 総合学科>

高等課程においては、専門課程・高等課程一体となった5か年教育、私立の高専を目指し、本校において生徒や保護者に安心感を与えることを第一義として、中学校・保護者・生徒にアピールする。それによって生徒や保護者から信頼される教育体制を構築させる。

専門課程においては、人間教育や技術の習得はもとより、国家資格の習得、就職先の確保という本来の姿を確立させる。

2. 教育目標

<高等課程 総合学科>

『ユマニテク』と命名された学校名そのままに「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念そのままに専門職業人の育成を目指す。教育方針及び教育特色をしっかりと理解した上で、本校で自分の『夢（将来の目標）』を見つけて、それに近づこうと努力する強い意志と意欲を養う。

人物像としては、

- さわやかな笑顔、大きな声、きれいな姿勢
- 相手の気持ちがわかり、家庭の愛を感じることのできる人材

<専門課程 調理師専科>

- (1) 基礎技術の鍛錬と幅広い知識の習得を目指す。
- (2) 作ることの楽しさや食していただくことの喜びから、調理製菓のやり甲斐を伝える。
- (3) 調理製菓に対する姿勢を身につけさせ、現場に臨む心構えを持たせる。

<専門課程 製菓製パン本科>

「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた専門職業人（パティシエ、ブーランジェ、和菓子職人、カフェ店員等）を養成することを目的とする。

3. 主な教育・研究の概要

<高等課程 総合学科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

教育方針及び教育特色をしっかりと理解した上で、その特色を活かし自分の『夢（将来の目標）』を探求し、その実現に近づこうと努力する強い意志と意欲を持たせると共に、同じ目的を共有する仲間と協調した学校生活を送ることのできる人物を育成する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

総合学科として、基礎的学力の習得に必要な「一般教養領域」、豊かな感性と表現力を有した人間形成を促すための「人間形成領域」、社会的生活能力の基礎を身につけるための「総合教養領域」、自分の夢（目標）の実現に役立てるための「専門教養領域」の4つの柱をカリキュラム上にバランスよく編成し、各領域ごとに適切な教員、教材、授業内容、評価を配置する。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

- ・本校教育方針に沿って、3年間を通じ自分の「夢」の探求と実現に努力を惜しまなかったこと。
- ・本校の定めるすべての授業科目に対し、規定に定まる出席率を満たしていること。
- ・本校の定めるすべての授業科目の成績評価が認定の要件を満たしていること。

<専門課程 調理師専科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

- ① 本校の教育方針や教育内容を理解し、本校で学びたいという気持ちを持っている者。
- ② 学科の特性や目指す職業について探究し、学習の目的や意義が明確である者。

- ③ 目標達成の為に粘り強く努力し、最後までやり遂げようとする意志のある者。
- ④ 卒業後の進路や将来の目標についての考えを持ち、社会に貢献する意欲のある者。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

調理師法施行規則に基づき、体系的に学修できるよう講義、実習科目を配置する。

調理師専科においては、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携し、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。

授業計画書（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、毎回の授業テーマなどを記載しており、入学年度に学生に配付し積極的に活用するように指示している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士を授与する。

- ・調理業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・授業料等学納金が完納されていること。
- ・成績評価が認定要件を満たしていること。

<専門課程 製菓製パン本科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

専門技術と知識を学び、社会性を身に付けていきたいと考える人。

「豊かな人間性」と「確かな技術」を身に付けるための基礎として、意欲や適性、将来の目標等を重視する。これらを捉えるために、選考における評価基準の主なものを以下にあげる。

- ① 本校の教育方針や教育内容を理解し、本校で学びたい気持ちがあるか。
- ② 希望学科に関係する職業を理解し、入学目的・身に付けたいことが明確であるか。
- ③ 目標達成のために、粘り強く努力し、やり遂げる気持ちがあるか。
- ④ 卒業後の進路、将来について考えているか。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

製菓衛生師法施行規則に基づき、体系的に学修できるよう講義、実習科目を配置する。

製菓製パン本科においては「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携し、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。

授業計画書（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、毎回の授業テーマなどを記載しており、入学年度に学生に配付し、積極的に活用するように指示している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士を授与する。

- ・製菓業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。

- ・授業料等学納金が完納されていること。
- ・成績評価が認定要件を満たしていること。

4. 教職員の行動指針

<高等課程 総合学科>

- ①私学人としての意識を持ち、全教職員が一丸となり一人ひとりの努力で学校を運営するという意識・共通理解のもと、教職員相互の信頼と敬愛に基づく協同体制を万全のものとして、生き生きとした学校づくりに努める。また、教職員一人ひとりの行動、発言が学校の代表者という意識を強く持ち、責任ある行動や自己研鑽に努める。
- ②生徒ファーストのもと、感情に流されず生徒と共に伴走し、伸びようとする気持ちと愛情を持って指導にあたる。
- ③保護者や地域との連携を密にすることで、学校への不安を緩和し、学校への願いや要望を把握する。
- ④教職員は教育方針を理解し、授業計画や事務管理のみならず、教職員全員での学生生徒指導や募集活動まで幅広く物事にあたる。

<専門課程 調理師専科>

- ①全教職員が学校運営に対し共通認識の下、各自の業務に取り組む。
- ②教員は授業計画を入念に行い、興味深い魅力のある授業展開を心掛ける。
- ③職員は教育方針を理解し、事務管理のみならず学生指導・学生募集にあたる。
- ④教職員は組織の拡張を視野に置き、あらゆる面で個々の資質向上に努める。

<専門課程 製菓製パン本科>

- ①各々が教員として、また分野の技術知識人としての資質向上を目指し、協調性をもった職務を遂行する。
- ②学科の教育指針を基に、教員が共通の目的のもと指導に取り組む。
- ③学科の教育指針を学生便覧に掲載し、本学科の教育姿勢を学生へ浸透させる。
- ④教員の平均年齢の若さを優位点と捉え、学生の心と密に関わる。

Ⅱ. 令和3年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

令和4年3月31日現在

学 科 名	総合学科			調理師専科		製菓製パン本科	
	1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年
学 年							
学 級 数	3	2	2	1	1	2	2
定 員	80名	80名	80名	40名	40名	80名	80名
「5/1」時点 学生数 (A)	90名	64名	54名	31名	12名	83名	80名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	8名	2名	4名	8名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
「3/31」時点 学生数 (B)	85名	56名	54名	30名	12名	81名	80名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	8名	2名	4名	8名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

【高等課程（総合学科） 総計（集約）】

学 年	1年	2年	3年	合計
学 級 数	3	2	2	7
定 員	80名	80名	80名	240名
「5/1」時点 学生数 (A)	90名	64名	54名	208名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	0名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名
「3/31」時点 学生数 (B)	85名	56名	54名	195名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	0名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名

【専門課程（調理師専科、製菓製パン本科） 総計（集約）】

学 年	1 年	2 年	合計
学 級 数	3	3	6
定 員	120 名	120 名	240 名
「5/1」時点 学生数 (A)	114 名	92 名	206 名
(内) 内部進学者数	12 名	10 名	22 名
(内) 留学生数	1 名	0 名	1 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	0 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名
「3/31」時点 学生数 (B)	111 名	92 名	203 名
(内) 内部進学者数	12 名	10 名	22 名
(内) 留学生数	1 名	0 名	1 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	0 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名

(2) 令和 3 年度卒業生の状況

製菓衛生師試験の受験状況

令和 4 年 3 月 31 日現在

学 科 名	卒業生	受験者数	試験合格者(見込)【全国平均合格率】	備 考
調理師専科 (C)	12 名	12 名	11 名 (91.6%) 【72.8%】	合格率は愛知県
(内)内部進学者	2 名	2 名	1 名 —	
(内)留学生数	0 名	0 名	0 名 —	
製菓製パン本科 (D)	80 名	80 名	80 名 (100%) 【95.5%】	合格率は愛知県
(内)内部進学者	8 名	8 名	8 名 —	
(内)留学生数	0 名	0 名	0 名 —	
合 計 (C)+(D)	92 名	92 名	91 名 (98.9%)	

就業者状況

学 科 名	専門分野 就業者(予定)	専門分野外 就業者	内部 進学者数	他、 進学者数	その他 (未就職)	備 考
総合学科 (E)	13 名 (86.7%)※	0 名	23 名	16 名	2 名	卒業生 54 名中
(内)内部進学者	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
調理師専科 (F)	10 名 (83.3%)	0 名	0 名	0 名	2 名	卒業生 12 名中
(内)内部進学者	1 名 —	0 名	0 名	0 名	1 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
製菓製パン本科 (G)	75 名 (93.8%)	1 名	0 名	0 名	4 名	卒業生 80 名中
(内)内部進学者	7 名 —	0 名	0 名	0 名	1 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
合 計 (E)+(F)+(G)	98 名 (87.9%)	1 名	23 名	16 名	8 名	卒業生 146 名中

※総合学科は就職希望者 15 名中として

(3) 学生募集活動・取組

①数値目標

総合学科	2021 年度実績	2021 年度目標
オープンキャンパス動員数	279 名	300 名
(内) 内部進学者	0 名	0 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
受験者数	108 名	110 名
(内) 内部進学者	0 名	0 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
入学者数	87 名	80 名
(内) 内部進学者	0 名	0 名
(内) 留学生数	0 名	0 名

調理師専科	2021 年度実績	2021 年度目標
オープンキャンパス動員数	192 名	200 名
(内) 内部進学者	12 名	6 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
受験者数	39 名	40 名
(内) 内部進学者	12 名	6 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
入学者数	38 名	40 名
(内) 内部進学者	12 名	6 名
(内) 留学生数	0 名	0 名

製菓製パン本科	2021 年度実績	2021 年度目標
オープンキャンパス動員数	550 名	430 名
(内) 内部進学者	4 名	6 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
受験者数	76 名	80 名
(内) 内部進学者	4 名	6 名
(内) 留学生数	0 名	0 名
入学者数	76 名	80 名
(内) 内部進学者	4 名	6 名
(内) 留学生数	0 名	0 名

②募集の計画・取組報告

<総合学科>

【目標1】受験者総数 110 名以上（専願 70 名以上、併願 40 名以上）を目標値とする。

【結果】受験者総数 108 名受験（専願 82 名、併願 26 名）。受験者総数、併願受験者はやや目標値を下回ったが専願受験者は目標を大幅にクリアして、結果として専願生徒のみで入学予定者は 81 名(不合格 1 名)に達し、定員を充足することができ、最終的には昨年度と同水準の 87 名の入学者となった。

【目標2】男子生徒の入学比率 15%以上の実現

【結果】全体で 21 名の受験があり、専願入学予定者 81 名中、男子は 17 名(21%)となり、併願からは 0 名だったものの、最終入学者ベースで 19.5%となり目標を達成した。

<調理師専科>

昨年度募集が 31 名となり、今年度募集については定員充足を目指したものの、結果としては 95%（38 名入学予定）の達成率となった。また、高校訪問やガイダンスの拡大実施についても目標としていたが、新型コロナウイルスの影響により中止や延期が重なり、思うような活動ができなかった。しかし、その状況下においても HP や SNS の活用による募集活動を地道に続けた結果、38 名入学に結び付けられたことは次年度以降の好材料と考え、引き続き定員充足を目指していきたい。

<製菓製パン本科>

昨年度まで 3 年連続定員充足を達成していたため、今年度も同じくそれを目指したものの、結果としては 95%（76 名）となった。調理師専科同様、昨年度からのコロナの影響もあり、ガイダンスや高校訪問の拡大実施が難しかったため、HP や SNS の活用による募集活動を行ったことでそれなりの結果は出せたと考える。また、次年度募集に向けての 3 月 OC（2 回）で 83 名を動員でき、非常に手応えが良かったため、次年度募集は再び定員充足を目指していきたい。

③入学前教育の計画および取組報告

<調理師専科>

入学前教育については、在學生と同じように全工程での実習を行い、入学後の学習体制をイメージし、学習意欲の向上に努めるという計画であった。結果としては第 1 回の西洋料理実習は実施できたが、第 2 回（予定は中国料理）は新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止（実習着採寸等は実施）となった。しかしながら、第 1 回のみとはいえ専門教育の一環としての調理法を入学予定者に教えることができたと考えている。

<製菓製パン本科>

全 2 回を計画し、第 1 回ではオープンキャンパスよりも実際の授業に近づけた形式で実施できたものの、第 2 回は調理師専科と同じく実習着採寸の実施のみとなり、製菓実習は中止となった。しかしながら、第 1 回だけでも実施したことで、入学予定者との接触により入学に対する不安の解消、入学後のモチベーション向上にも繋がったと考えている。

(4) 各種認定（指定）状況について ※専門課程のみ

○高等教育の修学支援制度 ※認定を受けている学科のみ記載

《支援状況》				
【入学金】				
調理師専科	: I区 (満額)	0名、II区 (2/3)	1名、III区 (1/3)	0名
製菓製パン本科	: I区 (満額)	0名、II区 (2/3)	1名、III区 (1/3)	1名
合計		0名	2名	1名
【前期学費】				
調理師専科	: I区 (満額)	0名、II区 (2/3)	1名、III区 (1/3)	3名
製菓製パン本科	: I区 (満額)	15名、II区 (2/3)	10名、III区 (1/3)	2名
合計		15名	11名	5名
【後期学費】				
調理師専科	: I区 (満額)	0名、II区 (2/3)	3名、III区 (1/3)	1名
製菓製パン本科	: I区 (満額)	19名、II区 (2/3)	6名、III区 (1/3)	2名
合計		19名	9名	3名

○職業実践専門課程 ※認定を受けている学科のみ記載

<u>認定学科<製菓製パン本科></u>
<u>今年度認定学科<調理師専科></u>
学校関係者評価委員会（1回）、教育課程編成委員会（2回）を実施

○専門実践教育訓練給付金制度 ※認定を受けている学科のみ記載

《指定年度・利用状況》（下記に学科別で詳細を明記）
製菓製パン本科【指定年度：令和4年4月より】 ※次年度からのため利用者なし

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

<総合学科>

(1) 数値目標結果

①入学定員 80 名の実現

【目標 1】受験者総数 110 名以上（専願 70 名以上、併願 40 名以上）を目標値とする。

【結果】受験者総数 108 名受験（専願 82 名、併願 26 名）。受験者総数、併願受験者はやや目標値を下回ったが専願受験者は目標を大幅にクリアして、結果として専願生徒のみで入学予定者は 81 名(不合格 1 名)に達し、定員を充足することができ、最終的には昨年度と同水準の 87 名の入学者となった。

【目標 2】男子生徒の入学比率 15%以上の実現

【結果】全体で 21 名の受験があり、専願入学予定者 81 名中、男子は 17 名(21%)となり、併願からは 0 名だったものの、最終入学者ベースで 19.5%となり目標を達成した。

②退学率 5%以内の実現

【目標】退学者数 1 年次 5 名以内、2 年次 3 名以内、3 年次 0 名を目標とする。

【結果】1 年次 5 名、2 年次 8 名、3 年次 0 名、計 13 名(3/31 確定)。本年度開始時の在籍生徒 208 名に対し退学率 6.25%となり、やや目標値を超過する結果となった。

③生徒実員 220 名の実現（次年度生徒募集結果を踏まえて）

【結果】・入学者 87 名に 2 年進級 85 名、3 年進級 56 名を加え、228 名となり目標を達成。

④進路：進学率 70%、就職率 30%、学内進学率 45%以上(本年度においては 17 名以上)を、就職内定率 90%を目標とする。

【結果】進学率 70%(38 名)、就職率 28%(15 名)、その他 2%(1 名)

学内進学率 61%(23 名)、就職内定率 80%(15 名中 12 名)

- ・進学希望者、就職希望者の比率はほぼ目標値を実現し、進学者は合格率 100%を達成した。進学者のうち学内進学者は 23 名で 61%に達し目標を大幅に上回った。学内進学率は 3 年の全在籍者に対しても 43%に達し、これまでにない比率となっている。就職については内定率 80%と目標を下回ったが、残る 3 名についても引き続き指導を続け就職先を確定するよう努める。その他 1 名については職業訓練校への進学であり、進路未決定者を大幅に削減しているのが本年度の特徴である。

(2) 目標達成計画／重点課題の実施状況・結果

①新校名の認知拡大、学内進学等のアピール、訪問校数の向上

校名変更より 3 年が経ち、旧校名との混同もほぼ見受けられなくなり、認知度はかなり向上した。新校名の認知が高まると同時に、「総合学科」であること、「男女共学」となったこと、「学内進学」を推進していることなども浸透し、昨年に引き続き、高水準での受験者、入学予定者の維持につなげることができたと考えている。ただしこれは昨年以前の広報活動の成果によるところが大きく、本年度は広報活動に従事できる職員の減少、コロナ禍の影響などにより、中学校訪問の件数は 107 校(昨年度 184 校)と減少しているため、次年度への影響が懸念される。次年度は早期に訪問を開始し、訪問件数を増やすとともに質的にもより強く本校の教育内容や存在をアピールする必要がある。

②体験入学の内容の改善、参加者の増加

昨年度は第 1 回目を中止せざるを得ないなど、少なからずコロナ禍の影響があったが、本年度

は影響は幾分か緩和され、全6回を予定通り実施することができた。参加者数はのべ249名で目標としていた300名には及ばなかったが、1回目から参加者の本校に対する興味関心は例年になく高く、昨年に引き続き保護者の参加も多かった(140名、全参加生徒に対する参加率54%)。

また参加者アンケートの結果からは昨年以上に第1回、第2回の早い段階で本校を第1希望に据える生徒の存在が伺え、そうしたことが参加者数に対する出願率の高さに反映していると考えられる。また昨年から第6回終了後に実施した「学校説明会」を「入試説明会」に名称変更し、より入試対策に軸足を置いた内容とした。その結果78名の参加を得ることができ、そのほとんどが出願に直結した。本校を希望しつつも入試に不安を抱える生徒・保護者にとって安心材料となり、希望者のより確実な出願に寄与できたと考えている。

また、参加者アンケートの内容からは本校教員や手伝い生徒の対応を高く評価する声が圧倒的に多く、実習内容もさることながら参加生徒に対する親身な対応が、そのまま学校の評価につながる可能性が伺えた。実習内容の継続的な改善・向上とともに、参加者への対応の丁寧さを今後も重視していきたい。

③退学率の抑制

本年度退学率は6.25%となり、数値目標に掲げた5%以内を超過となった。前期における欠席率、遅刻率は例年より少なく、比較的良い滑り出しだったが、夏場の第5波、冬休み明けの第6波などの感染拡大により、本校においても自宅療養、自宅待機を余儀なくされる生徒が一定数発生し、それがその他の要因（もともとの不登校傾向、就学意欲の低下が予め見受けられる生徒）とあいまって欠席が増加するケースも見受けられた。平素より課題を抱える生徒への対応は丁寧に行うよう心がけてはいるが、個々の生徒の情報や指導方針の共有をより密接に行い、引き続き退学率の低減に努めたい。

④学内上級学校との連携と学内進学率の向上

学内上級学校のオープンキャンパス参加への積極的促し、本校進学ガイダンスへの学内上級校の招へい、専門課程による特別実習の実施などにより、学内進学意識向上に年間を通じて務めた。結果として3年生の進路決定においては数値目標にも掲げた学内進学率45%以上を最終的に59%とすることができ大きく前進することができた。2年生の進路希望調査においても同水準を示す結果が出ているため今後とも学内進学率の維持向上は期待できる状況にある。ただし、1年生の調査においては現時点で明確に学内進学先を希望している生徒が一定数いる一方で、進路希望先未決定者も少なくない。これまで以上に学内進学先との連携の機会を早い段階で増やし、内容的にもより密接に関係性を意識できるような展開に努めたい。次年度は進路行事としてだけでなく、従来の特別実習などに加え、選択科目の講座の中での高専(大)接続も強化していく所存である。

⑤教員の資質向上のための研修機会の増加、内容の充実

学園として予め設けられている研修のほかに、本校職員として資質向上のための校内における研修を実施した。本年度は各学科の広報の実際をわずかながらでも共有するために、3学科共通の時間の中で、各学科の広報担当者の学外でのガイダンスを直接視聴し、質問や意見交換をする機会を設けた。また授業力の向上のため、学科の垣根を越えた授業見学も実施した。こうした取り組みを継続、強化することで、他学科の持つ技術や資質を互いに交換し、学科間理解を深めるとともに、指導技術の向上に今後とも努めていきたい。

<調理師専科>

(1) 数値目標結果

就職支援状況（就職内定率）

コロナ禍で調理の求人が少ない中、方向性を決めてそれぞれが就職先を決定した。学校に届いている求人だけでは対応できない場合は、個々で就職（求人）情報サイト等を活用している。次年度より卒業予定者数も増えるため、8月に訪問した企業へ求人の要望をし、2、3月中には学内での就職ガイダンスに企業を招いて相談会を実施することで、より就職支援に力を入れていきたい。今年度の内定率では12名中10名の内定になるため、83%という数字になった。

(2) 目標達成計画／重点課題の実施状況・結果

国家試験合格者数、就職率向上のための取組状況

製菓衛生師試験の合格者数は、12名中11名となった。不合格者の1名は外国籍の学生で、大変努力をしていたため非常に残念であった。今後、外国籍の学生に対する対応についてより検討しなければならないと考えている。

就職率の向上のためには就労環境等の企業努力が不可欠だと思われるが、専門学校としては興味を持たせ、夢を抱くことが出来るような魅力ある授業を展開することで就職率にも寄与していきたい。

退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組状況

今年度は1年生で1名退学者が出たが、退学者の低減には教員とのコミュニケーションが重要で、不安定な状況の学生に寄り添い、安心して学べる環境を提供することだと考えている。その為には教員が目配り気配りをし、些細な事でも見過ごさないよう心掛けていきたい。

<製菓製パン本科>

(1) 数値目標結果

国家試験合格者数、就職率向上のための取組状況

○製菓衛生師養成学、リカレント教育

製菓衛生師試験対策として学生の習熟度に応じた教育と、試験直前の対策講座の実施、個別指導によるきめ細やかな指導の結果、3年連続で合格率100%を達成した。

○企業説明会

学生より就職ニーズの高い業態を有す企業の人事担当者による企業説明会を開催した。業界の求める人材を理解するとはもちろんのこと、業態特有のやりがいやベネフィットを理解し、就職活動への意欲向上に寄与した。

○卒業生懇談会

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、「活躍したい業界」は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくない。

本学科は、業界の諸先輩方の話を聞き質問できる機会を積極的に作り将来像の具現化を進めている。また、卒業生によって構成されるユマニテクススイーツ同窓会総会が本校を会場として実施されていることを機に、卒業生たちに様々な質問をできる機会を設けている。学外研修として、一般社団法人愛知県洋菓子協会主催の学生向け研修会への参加、インターンシップを実施することによる就職活動への意識付けなど、卒業生の活躍こそが在校生への見本や

目標になるということを重要な点と位置付けている。学生の長期休業期間には、実店舗見学（レポート提出）を課題として設定し、学生同士で話し合い、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めた。

○退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組状況

今年度の退学者は1年生で2名となった。近年の学生は価値観や志向が多様化しており、画一的な指導では対応が不十分となるため、定期的に、状況に応じて「個別」面談を行い、一人ひとりの個性を伸ばす指導を重視している。